障害福祉ガイド



本　庄　市

令和8年度（2026 年度）

この「障害者福祉ガイド」は、障害のある方に各種の福祉施策の概要とサービスの窓口を紹介し、日常生活の手引きとしてご活用いただくために作成しました。

令和8年4月1日現在の情報で編集しています。制度などの内容は、変更になる場合がありますので、詳しくは各窓口にお問い合わせください。

また、サービスや手当等の受給申請にあたっては、該当にならない場合もありますので、詳しくは各窓口にお問い合わせください。

盲目の国学者 塙 保己一



塙 保己一

はなわ　　ほきいち

■生年　　延享３年（1746 年）

■没年　　文政４年（1821 年）

盲目の国学者塙保己一は、江戸時代の延享３年（1746年）５月５日武蔵国児玉郡保木野村（現本庄市児玉町保木野）に生まれました。

保己一は、７歳のとき病気で失明し、１５歳で単身江戸に出て、当時の盲人社会の指導者である雨富検校の下で按摩や針、灸などを修行しましたが、一念発起して学問の道を志し、本人の努力と好意ある人々の助力で重い障害を乗りこえて大学者となり、また盲人の最高位である総検校にまで昇りました。

大学者となった保己一は、和学講談所（東京大学史料編さん所の前身）の開設、「大日本史」（水戸光圀が作り始めた歴史書）の校正、そして日本最大の叢書「群書類従」の編さんと刊行などの大きな事業を成し遂げました。

特に、「群書類従」の編さんは、保己一が生涯をかけて取り組んだ一大事業でした。保己一は、価値のある古い書物や貴重な記録が将来無くなってしまうことを心配し、数多くの古書文献を集めて分類・整理し、４１年間をかけて文政２年（1819年）「群書類従」正編６７０巻に編さんして刊行しました。「群書類従」は、日本史や日本文学等を研究するために不可欠で貴重な資料を後世に伝えるものとなりました。

また、保己一は、盲人社会の改革に努力し、私利私欲のない人柄と偉大な業績は、「奇跡の人」ヘレンケラー女史をはじめ多くの人々に尊敬されることになりました。

重い障害を克服し、障害のない人にも困難な大事業を成し遂げ、人々から尊敬された塙保己一は、「共生社会の創造」、「ノーマライゼーション」、「リハビリテーション」という基本理念を江戸時代に実践した偉大な先人であります。